

日 本 国 特 許 庁

JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年 8月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-260730

出 願 人

Applicant(s):

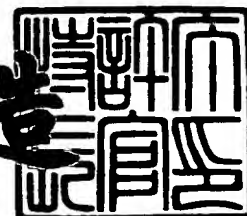
株式会社ニコン



2001年 8月 3日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3069000

【書類名】 特許願

【整理番号】 00-00405

【提出日】 平成12年 8月30日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 H04N 1/60

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株式会社ニコン
内

【氏名】 陳 浙宏

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号 株式会社ニコン
内

【氏名】 石賀 健一

【特許出願人】

【識別番号】 000004112

【氏名又は名称】 株式会社ニコン

【代理人】

【識別番号】 100072718

【弁理士】

【氏名又は名称】 古谷 史旺

【電話番号】 3343-2901

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 013354

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9702957

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像処理装置および画像処理プログラムを記録した記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、

画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素を示す着目画素と、該着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、該着目画素の少なくとも 1 つの色成分に対し、選択的に平滑化を行う平滑化手段

を備えたことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】 複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、

画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素と、該画素の周辺に位置する画素との類似度を算出する類似度算出手段と、

前記類似度算出手段で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手段と、

前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素の少なくとも 1 つの色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手段と

を備えたことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 3】 複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、

画像データを構成する複数の画素のうち、所定の周期で配置された画素に欠落する色成分の色情報を補間する補間手段と、

前記補間手段で補間の対象となる画素毎に、少なくとも 2 つの異なる方向に対する類似度を算出する類似度算出手段と、

前記類似度算出手段で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手段と、

前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う平

滑化手段と

を備えたことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 4】 請求項 3 に記載の画像処理装置において、
前記補間手段は、
空間的な配置密度が最も高い色成分が欠落する画素を補間の対象とし、
前記平滑化手段は、
前記特定のグループに分類された画素の周辺に位置する画素の前記空間的な配置密度が最も高い色成分の色情報に平滑化を行う
ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 5】 請求項 2 または請求項 3 に記載の画像処理装置において、
前記平滑化手段は、
前記分類手段で前記特定のグループに分類された画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い、該分類手段で該特定のグループに分類されなかった画素に隣接する画素のうち、平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元する
ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 6】 請求項 5 に記載の画像処理装置において、
前記平滑化手段は、
前記分類手段で分類の対象となった画素を順次選択し、任意の時点で選択した画素が前記特定のグループに分類される場合、該画素に隣接し、かつ、該時点で選択されていない画素にも隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い、該時点で選択した画素が該特定のグループに分類されない場合、該画素に隣接する画素のうち、既に平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元する

ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 7】 請求項 2 または請求項 3 に記載の画像処理装置において、
前記平滑化手段は、
前記分類手段で前記特定のグループに分類された複数の画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う

ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 8】 請求項 2 ないし請求項 7 の何れか 1 項に記載の画像処理装置において、

前記平滑化手段は、

前記類似度算出手段で少なくとも 2 つの異なる方向に対して算出された類似度が同程度となる特徴を示すグループを、前記特定のグループとする

ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 9】 請求項 8 に記載の画像処理装置において、

前記平滑化手段は、

前記類似度算出手段で少なくとも 2 つの異なる方向に対して算出された類似度の差異が所定の閾値よりも小さい場合、該少なくとも 2 つの異なる方向に対する類似度が同程度であると判断する

ことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 10】 複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素を示す着目画素と、該着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、該着目画素の少なくとも 1 つの色成分に対し、選択的に平滑化を行う平滑化手順

をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする記録媒体。

【請求項 11】 複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素と、該画素の周辺に位置する画素との類似度を算出する類似度算出手順と、

前記類似度算出手順で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手順と、

前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近

傍に位置する画素とから選択した画素の少なくとも1つの色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手順と

をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする記録媒体。

【請求項12】 複数の画素で構成され、少なくとも1つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

画像データを構成する複数の画素のうち、所定の周期で配置された画素に欠落する色成分の色情報を補間する補間手順と、

前記補間手順で補間の対象となる画素毎に、少なくとも2つの異なる方向に対する類似度を算出する類似度算出手順と、

前記類似度算出手順で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手順と、

前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手順と

をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、画像データに対して平滑化を行う画像処理装置および該平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体に関する。

【0002】

【従来の技術】

電子カメラには、複数色のカラーフィルタが所定の位置に配置された撮像素子によって、カラー画像データを生成するものがある。このような電子カメラでは、撮像素子の個々の画素から1つの色成分の色情報しか出力されないため、画素

単位で全ての色成分の色情報を得るために、補間処理が行われている。

【0003】

このような補間処理としては、補間処理の対象となる補間対象画素と、補間対象画素の周辺に位置する周辺画素との空間的な類似性を判定し、類似性の強い方向に位置する周辺画素から出力される色情報を用いて補間値を算出する方法が従来から考えられているが、補間対象画素が複数の方向に同程度の類似性を示す場合、補間値は周辺画素の色情報を均一に利用して算出するのが一般的である。

【0004】

例えば、図10(1)のように、撮像素子の1画素ピッチに相当する間隔で色情報の値が周期的に変化し、各々の画素が複数の方向に同程度の類似性を示す画像データに対して補間処理を行う場合、座標 $[i, j]$ に位置するR(赤色)の色情報を有する画素に対する緑の補間値 $G'r[i, j]$ は、以下のように算出されることになる。

【0005】

$$\begin{aligned} G'r[i, j] &= (G[i, j-1] + G[i, j+1] + G[i-1, j] + G[i+1, j]) / 4 \\ &\quad + (4 \cdot R[i, j] - R[i, j-2] - R[i, j+2] - R[i-2, j] - R[i+2, j]) / 8 \\ &= (200 + 200 + 100 + 100) / 4 + (4 \cdot 150 - 150 - 150 - 150 - 150) / 8 \\ &= 150 \end{aligned}$$

同様にして、他の画素の緑の補間値を算出すると、補間処理後に得られる緑色成分の色情報は、図10(2)のように、撮像素子の1画素ピッチに相当する間隔で周期的に変化するチェックパターンを示すことになる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、図10(1)に示すようなカラー画像データは、高密度のチェックパターンの被写体が撮像された場合だけでなく、1画素ピッチに相当する間隔の縦方向のストライプパターンや横方向のストライプパターンの被写体が撮像された場合にも生成される。また、色の変化が全く無い被写体が撮像された場合であっても、撮像素子の奇数ラインと偶数ラインとのゲイン差や光が撮像素子の内部に浸透する深さの波長依存性によって、高密度のチェックパターンのカラー画像

データが生成されることが知られている。

【0007】

すなわち、図10（1）に示すようなカラー画像データの原画像は、必ずしも高密度のチェックパターンであるとは限らず、図10（2）に示すような周期的な緑色成分の色情報の変化は、補間処理後の画像にノイズとして現れ、画質を著しく低下させるおそれがある。

さらに、このようなノイズを含む画像を圧縮（JPEG等）して保存する場合、圧縮効率も悪化する。

【0008】

そのため、電子カメラでは、カラー画像データから高密度のチェックパターンを除去するために、平滑化を行う対策がとられている。

しかし、従来から行われている平滑化は、カラー画像データの全体を一様に平滑化しているので、色や輝度が細かく変化する部分の構造が破綻し、画像本来の解像度が低下するおそれがあった。

【0009】

なお、このような解像度の低下は、カラー画像データに限らず、白黒の画像データであっても発生するおそれがある。

そこで、請求項1ないし請求項9に記載の発明は、画像本来の構造を残しつつ、平滑化が行える画像処理装置を提供することを目的とする。また、請求項10ないし請求項12に記載の発明は、画像本来の構造を残しつつ、平滑化が行える画像処理プログラムを記録した記録媒体を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の画像処理装置は、複数の画素で構成され、少なくとも1つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素を示す着目画素と、該着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、該着目画素の少なくとも1つの色成分に対し、選択的に平滑化を行う平滑化手段を備えたことを特徴とする。

【0011】

なお、平滑化としては、平滑化の対象となる画素の色情報を、局所領域内の画素（平滑化の対象となる画素および該画素の周辺に位置する画素）の色成分の色情報を加重加算した値に置き換える方法等がある。

【 0 0 1 2 】

請求項 2 に記載の画像処理装置は、複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素と、該画素の周辺に位置する画素との類似度を算出する類似度算出手段と、前記類似度算出手段で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手段と、前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素の少なくとも 1 つの色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手段とを備えたことを特徴とする。

【 0 0 1 3 】

請求項 3 に記載の画像処理装置は、複数の画素で構成され、少なくとも 1 つの色成分を含む画像データに対して平滑化を行う画像処理装置において、画像データを構成する複数の画素のうち、所定の周期で配置された画素に欠落する色成分の色情報を補間する補間手段と、前記補間手段で補間の対象となる画素毎に、少なくとも 2 つの異なる方向に対する類似度を算出する類似度算出手段と、前記類似度算出手段で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手段と、前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手段とを備えたことを特徴とする。

【 0 0 1 4 】

なお、類似度算出手段は、補間手段によって補間が完了した状態で、類似度を算出しても良いし、補間が完了する前の状態で、類似度を算出しても良い。また、補間手段では、補間に際して類似度を用いる場合、類似度算出手段で算出される類似度を用いても良いし、別途、類似度を算出しても良い。

請求項 4 に記載の画像処理装置は、請求項 3 に記載の画像処理装置において、

前記補間手段は、空間的な配置密度が最も高い色成分が欠落する画素を補間の対象とし、前記平滑化手段は、前記特定のグループに分類された画素の周辺に位置する画素の前記空間的な配置密度が最も高い色成分の色情報に平滑化を行うことを特徴とする。

【 0 0 1 5 】

請求項 5 に記載の画像処理装置は、請求項 2 または請求項 3 に記載の画像処理装置において、前記平滑化手段は、前記分類手段で前記特定のグループに分類された画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い、該分類手段で該特定のグループに分類されなかった画素に隣接する画素のうち、平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元することを特徴とする。

【 0 0 1 6 】

請求項 6 に記載の画像処理装置は、請求項 5 に記載の画像処理装置において、前記平滑化手段は、前記分類手段で分類の対象となった画素を順次選択し、任意の時点で選択した画素が前記特定のグループに分類される場合、該画素に隣接し、かつ、該時点で選択されていない画素にも隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い、該時点で選択した画素が該特定のグループに分類されない場合、該画素に隣接する画素のうち、既に平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元することを特徴とする。

【 0 0 1 7 】

請求項 7 に記載の画像処理装置は、請求項 2 または請求項 3 に記載の画像処理装置において、前記平滑化手段は、前記分類手段で前記特定のグループに分類された複数の画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行うことを特徴とする。

請求項 8 に記載の画像処理装置は、請求項 2 ないし請求項 7 の何れか 1 項に記載の画像処理装置において、前記平滑化手段は、前記類似度算出手段で少なくとも 2 つの異なる方向に対して算出された類似度が同程度となる特徴を示すグループを、前記特定のグループとすることを特徴とする。

【 0 0 1 8 】

請求項 9 に記載の画像処理装置は、請求項 8 に記載の画像処理装置において、

前記平滑化手段は、前記類似度算出手段で少なくとも2つの異なる方向に対して算出された類似度の差異が所定の閾値よりも小さい場合、該少なくとも2つの異なる方向に対する類似度が同程度であると判断することを特徴とする。

【0019】

請求項10に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体は、複数の画素で構成され、少なくとも1つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素を示す着目画素と、該着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、該着目画素の少なくとも1つの色成分に対し、選択的に平滑化を行う平滑化手順をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする。

【0020】

請求項11に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体は、複数の画素で構成され、少なくとも1つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素と、該画素の周辺に位置する画素との類似度を算出する類似度算出手順と、前記類似度算出手順で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手順と、前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素の少なくとも1つの色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手順とをコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする。

【0021】

請求項12に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体は、複数の画素で構成され、少なくとも1つの色成分を含む画像データに対する平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体において、画像データを構成する複数の画素のうち、所定の周期で配置された画素に欠落する色成分の色情報を補間する補間手順と、前記補間手順で補間の対象となる画素毎に、少なくとも2つの異なる方向に対する類似度を算出する類似度算出手順と、前

記類似度算出手順で類似度が算出された画素の各々を、該類似度の特徴が異なる複数のグループの何れかに分類する分類手順と、前記複数のグループのうち、特定のグループに分類された画素と、該画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う平滑化手順とをコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録したことを特徴とする。

【 0 0 2 2 】

ここで、上記の発明に関連する発明（《 1 》～《 6 》）を開示する。

《 1 》：請求項 1 2 に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記補間手順は、

空間的な配置密度が最も高い色成分が欠落する画素を補間の対象とし、

前記平滑化手順は、

前記特定のグループに分類された画素の周辺に位置する画素の前記空間的な配置密度が最も高い色成分の色情報に平滑化を行う

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【 0 0 2 3 】

《 2 》：請求項 1 1 または請求項 1 2 に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記平滑化手順は、

前記分類手順で前記特定のグループに分類された画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い、該分類手順で該特定のグループに分類されなかった画素に隣接する画素のうち、平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元する

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【 0 0 2 4 】

《 3 》：《 2 》に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記平滑化手順は、

前記分類手順で分類の対象となった画素を順次選択し、任意の時点で選択した画素が前記特定のグループに分類される場合、該画素に隣接し、かつ、該時点で選択されていない画素にも隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行い

、該時点で選択した画素が該特定のグループに分類されない場合、該画素に隣接する画素のうち、既に平滑化を行った画素が有する色成分の色情報を元の状態に復元する

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【0025】

《4》：請求項11または請求項12に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記平滑化手順は、

前記分類手順で前記特定のグループに分類された複数の画素に隣接する画素が有する色成分の色情報に平滑化を行う

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【0026】

《5》：請求項11、請求項12、《1》ないし《4》の何れか1つに記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記平滑化手順は、

前記類似度算出手順で少なくとも2つの異なる方向に対して算出された類似度が同程度となる特徴を示すグループを、前記特定のグループとする

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【0027】

《6》：《5》に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体において、

前記平滑化手順は、

前記類似度算出手順で少なくとも2つの異なる方向に対して算出された類似度の差異が所定の閾値よりも小さい場合、該少なくとも2つの異なる方向に対する類似度が同程度であると判断する

ことを特徴とする特徴とする画像処理プログラムを記録した記録媒体。

【0028】

【発明の実施の形態】

以下、図面に基づいて、本発明の実施形態について詳細を説明する。

ただし、第1の実施形態ないし第3の実施形態では、本発明の画像処理装置が

行う画像処理の機能を備えた電子カメラを用いて説明を行う。

図1は、第1の実施形態ないし第3の実施形態に対応する電子カメラの機能ブロック図である。

【0029】

図1において、電子カメラ1は、A/D変換部10、画像処理部（例えば、画像処理専用の1チップ・マイクロプロセッサ）11、制御部12、メモリ13、圧縮／伸長部14、表示画像生成部15を備えていると共に、メモ리카ード（カード状のリムーバブルメモリ）16とのインタフェースをとるメモ리카ード用インタフェース部17および所定のケーブルや無線伝送路を介してPC（パーソナルコンピュータ）18等の外部装置とのインタフェースをとる外部インタフェース部19を備えており、これらはバスを介して相互に接続される。

【0030】

また、電子カメラ1は、撮影光学系20、撮像素子21、アナログ信号処理部22、タイミング制御部23を備えており、撮像素子21には撮影光学系20で取得された光学像が結像し、撮像素子21の出力は、アナログ信号処理部22に接続され、アナログ信号処理部22の出力は、A/D変換部10に接続され、タイミング制御部23には制御部12の出力が接続され、タイミング制御部23の出力は、撮像素子21、アナログ信号処理部22、A/D変換部10、画像処理部11に接続される。

【0031】

さらに、電子カメラ1は、リリースボタンやモード切り換え用の選択ボタン等に相当する操作部24およびモニタ25を備えており、操作部24の出力は制御部12に接続され、モニタ25には表示画像生成部15の出力が接続される。

なお、PC18には、モニタ26やプリンタ27等が接続されており、CD-ROM28に記録されたアプリケーションプログラムが予めインストールされているものとする。また、PC18は、不図示のCPU、メモリ、ハードディスクの他に、メモ리카ード16とのインタフェースをとるメモ리카ード用インタフェース部（図示省略）や所定のケーブルや無線伝送路を介して電子カメラ1等の外部装置とのインタフェースをとる外部インタフェース部（図示省略）を備えてい

る。

【 0 0 3 2 】

図 1 のような構成の電子カメラ 1 において、操作部 2 4 を介し、操作者によって撮影モードが選択されてリリースボタンが押されると、制御部 1 2 は、タイミング制御部 2 3 を介して、撮像素子 2 1、アナログ信号処理部 2 2、A/D 変換部 1 0 に対するタイミング制御を行う。撮像素子 2 1 は、光学像に対応する画像信号を生成し、その画像信号は、アナログ信号処理部 2 2 で所定の信号処理が行われ、A/D 変換部 1 0 でデジタル化され、画像データとして、画像処理部 1 1 に供給される。画像処理部 1 1 は、画像データに対し、後述する補間処理や平滑化処理を行う他に、階調変換や輪郭強調の画像処理を行う。画像処理が完了した画像データは、必要に応じて、圧縮／伸長部 1 4 で所定の圧縮処理が施され、メモ리카ード用インタフェース部 1 7 を介してメモ리카ード 1 6 に記録される。

【 0 0 3 3 】

なお、画像処理が完了した画像データは、圧縮処理を施さずにメモ리카ード 1 6 に記録したり、PC 1 8 側のモニタ 2 6 やプリンタ 2 7 で採用されている表色系に変換して、外部インタフェース部 1 9 を介して PC 1 8 に供給しても良い。

また、操作部 2 4 を介し、操作者によって再生モードが選択されると、メモ리카ード 1 6 に記録されている画像データは、メモ리카ード用インタフェース部 1 7 を介して読み出されて圧縮／伸長部 1 2 で伸長処理が施され、表示画像作成部 1 5 を介してモニタ 2 5 に表示される。

【 0 0 3 4 】

なお、伸長処理が施された画像データは、モニタ 2 5 に表示せず、PC 1 8 側のモニタ 2 6 やプリンタ 2 7 で採用されている表色系に変換して、外部インタフェース部 1 9 を介して PC 1 8 に供給しても良い。

図 2 は、第 1 の実施形態および第 2 の実施形態における画像データの色成分の配列を示す図である。

【 0 0 3 5 】

なお、図 2 では、R、G、B を用いて色成分の種類を示し、座標 [X,Y] の値を用いて各々の色成分が存在する画素の位置を示している。仮に、補間処理の対象

となる補間対象画素の座標を $[i, j]$ とすると、図 2 は、補間対象画素を中心とする 7×7 の画素の配列を示していることになる。また、図 2 (1) は、赤色成分が存在する画素を補間対象画素とした場合の配列を示し、図 2 (2) は、青色成分が存在する画素を補間対象画素とした場合の配列を示す。

【0036】

ところで、第 1 の実施形態および第 2 の実施形態において、画像処理部 11 は、緑色成分が欠落する画素に緑の補間値を補う補間処理（以下、「G 補間処理」と称する。）を行うと共に、緑色成分が欠落する画素の周辺に位置する周辺画素の平滑化処理を行い、その後、赤色成分や青色成分が欠落する画素に赤の補間値や青の補間値を補う補間処理を行う。ただし、青の補間値や赤の補間値を補う補間処理は、従来と同様に行えるため、説明を省略する。

【0037】

また、第 1 の実施形態および第 2 の実施形態では、説明を簡単にするため、G 補間処理における補間対象画素の座標を $[i, j]$ とすると共に、補間対象画素の色成分の種類（赤または青）に関係なく、緑の補間値を算出することができるため、図 2 の R および B を Z に置き換えて、補間対象画素の色情報を $Z[i, j]$ によって表現し、他の画素の色情報についても同様に表現する。

【0038】

さらに、第 1 の実施形態ないし第 3 の実施形態では、G 補間処理や平滑化処理の結果を $G'[X, Y]$ に設定するが、 $G'[X, Y]$ のうち、緑色成分の色成分が存在する画素に対応するものについては、初期値として、緑色成分の色成分 $G[X, Y]$ が設定されているものとする。

《第 1 の実施形態》

図 3 は、第 1 の実施形態における画像処理部 11 の動作フローチャートであるが、画像処理部 11 の動作のうち、G 補間処理および平滑化処理の動作を示している。

【0039】

以下、第 1 の実施形態の動作を説明するが、ここでは、図 3 を参照して画像処理部 11 による G 補間処理および平滑化処理の動作を説明し、他の動作の説明は

省略する。なお、第 1 の実施形態は、請求項 1、請求項 3 ないし請求項 6、請求項 8、請求項 9 に対応する。

まず、画像処理部 11 は、緑色成分が欠落する全ての画素に対し、縦方向および横方向の類似度を算出して、縦方向および横方向の類似性（以下、「縦横類似性」と称する。）を示す指標 HV を設定すると共に、斜め方向の類似度を算出して、斜め方向の類似性（以下、「斜め類似性」と称する。）を示す指標 DN を設定する（図 3 S 1）。

【0040】

ただし、第 1 の実施形態では、横方向よりも縦方向の類似性が強い画素に対しては指標 HV に 1 を設定し、縦方向よりも横方向の類似性が強い画素に対しては指標 HV に -1 を設定し、縦横間で類似性に区別がつかない画素に対しては指標 HV に 0 を設定するものとする。また、斜め 135 度方向よりも斜め 45 度方向の類似性が強い画素に対しては指標 DN [i, j] に 1 を設定し、斜め 45 度方向よりも斜め 135 度方向の類似性が強い画素に対しては指標 DN [i, j] に -1 を設定し、斜め方向間で類似性に区別がつかない画素に対しては指標 DN [i, j] に 0 を設定するものとする。

【0041】

例えば、緑色成分が欠落する全ての画素に対し、指標 HV と指標 DN とを設定する処理は、[i, j] に緑色成分が欠落する画素の座標を順次設定して、以下に示す処理を繰り返し行うことによって実現できる。

まず、画像処理部 11 は、以下の式 10 ～ 式 21 によって定義される縦方向および横方向に対する複数種類の類似度成分を算出する。

【0042】

縦方向の GG 間類似度成分： $Cv1[i, j] = |G[i, j-1] - G[i, j+1]|$ … 式 10

横方向の GG 間類似度成分： $Ch1[i, j] = |G[i-1, j] - G[i+1, j]|$ … 式 11

縦方向の BB(RR) 間類似度成分：

$Cv2[i, j] = (|Z[i-1, j-1] - Z[i-1, j+1]| + |Z[i+1, j-1] - Z[i+1, j+1]|) / 2$ … 式 12

横方向の BB(RR) 間類似度成分：

$Ch2[i, j] = (|Z[i-1, j-1] - Z[i+1, j-1]| + |Z[i-1, j+1] - Z[i+1, j+1]|) / 2$ … 式 13

縦方向の RR(BB) 間類似度成分：

$$Cv3[i, j] = (|Z[i, j-2] - Z[i, j]| + |Z[i, j+2] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 1 4}$$

横方向のRR(BB)間類似度成分：

$$Ch3[i, j] = (|Z[i-2, j] - Z[i, j]| + |Z[i+2, j] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 1 5}$$

縦方向のGR(GB)間類似度成分：

$$Cv4[i, j] = (|G[i, j-1] - Z[i, j]| + |G[i, j+1] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 1 6}$$

横方向のGR(GB)間類似度成分：

$$Ch4[i, j] = (|G[i-1, j] - Z[i, j]| + |G[i+1, j] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 1 7}$$

縦方向のBG(RG)間類似度成分：

$$Cv5[i, j] = (|Z[i-1, j-1] - G[i-1, j]| + |Z[i-1, j+1] - G[i-1, j]| + |Z[i+1, j-1] - G[i+1, j]| + |Z[i+1, j+1] - G[i+1, j]|) / 4 \cdots \text{式 1 8}$$

横方向のBG(RG)間類似度成分：

$$Ch5[i, j] = (|Z[i-1, j-1] - G[i, j-1]| + |Z[i-1, j+1] - G[i, j+1]| + |Z[i+1, j-1] - G[i, j-1]| + |Z[i+1, j+1] - G[i, j+1]|) / 4 \cdots \text{式 1 9}$$

縦方向の輝度間類似度成分：

$$Cv6[i, j] = (|Y[i, j-1] - Y[i, j]| + |Y[i, j+1] - Y[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 2 0}$$

横方向の輝度間類似度成分：

$$Ch6[i, j] = (|Y[i-1, j] - Y[i, j]| + |Y[i+1, j] - Y[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 2 1}$$

ただし、式 2 0 および式 2 1 において、 $Y[i, j]$ は、

$$Y[i, j] = (4 \cdot A[i, j] + 2 \cdot (A[i, j-1] + A[i, j+1] + A[i-1, j] + A[i+1, j]) + A[i-1, j-1] + A[i-1, j+1] + A[i+1, j-1] + A[i+1, j+1]) / 16 \cdots \text{式 2 2}$$

によって算出される値であり、周辺画素の色成分の色情報をR:G:B=1:2:1の比で平均化するフィルタリング処理で生成される輝度に相当する。なお、 $A[i, j]$ は、ベイヤ配列上の任意の色情報を表し、配置場所に応じてGまたはZの値をとる。

【 0 0 4 3 】

次に、画像処理部 1 1 は、以下の式 2 3 および式 2 4 に示すようにして、加重係数 $a1, a2, a3, a4, a5, a6$ によって、複数種類の類似度成分を各々の方向毎に加重加算する。

$$Cv0[i, j] = (a1 \cdot Cv1[i, j] + a2 \cdot Cv2[i, j] + a3 \cdot Cv3[i, j] + a4 \cdot Cv4[i, j] + a5 \cdot Cv5[i, j] + a6 \cdot Cv6[i, j]) / (a1 + a2 + a3 + a4 + a5 + a6) \cdots \text{式 2 3}$$

$$\begin{aligned} \text{Ch0}[i, j] = & (a1 \cdot \text{Ch1}[i, j] + a2 \cdot \text{Ch2}[i, j] + a3 \cdot \text{Ch3}[i, j] + a4 \cdot \text{Ch4}[i, j] \\ & + a5 \cdot \text{Ch5}[i, j] + a6 \cdot \text{Ch6}[i, j]) / (a1 + a2 + a3 + a4 + a5 + a6) \cdots \text{式 2 4} \end{aligned}$$

なお、式 2 3 および式 2 4 において、加重係数 $a1, a2, a3, a4, a5, a6$ の比率としては、例えば、「 $a1:a2:a3:a4:a5:a6=2:1:1:4:4:12$ 」などが考えられる。

【 0 0 4 4 】

ところで、式 2 3 および式 2 4 で算出した $\text{Cv0}[i, j]$ および $\text{Ch0}[i, j]$ は、そのまま、緑色成分が欠落する画素の縦方向の類似度および横方向の類似度とすることができるが、ここでは、縦方向および横方向に対する複数種類の類似度成分の算出および加重加算を、緑色成分が欠落する画素に対してだけでなく、周辺画素に対しても行い、このような加重加算によって得られた値を方向別に加重加算して、縦方向の類似度および横方向の類似度を算出する例を示す。

【 0 0 4 5 】

すなわち、画像処理部 1 1 は、緑色成分が欠落する画素と周辺画素とにおける類似度成分の加重加算の結果 ($\text{Cv0}[i, j]$ 、 $\text{Cv0}[i-1, j-1]$ 、 $\text{Cv0}[i-1, j+1]$ 、 $\text{Cv0}[i+1, j-1]$ 、 $\text{Cv0}[i+1, j+1]$ など) を、以下の《方法 1》または《方法 2》のように加重加算して、緑色成分が欠落する画素の縦方向の類似度 $\text{Cv}[i, j]$ および横方向の類似度 $\text{Ch}[i, j]$ を算出する。

【 0 0 4 6 】

《方法 1》

$$\begin{aligned} \text{Cv}[i, j] = & (4 \cdot \text{Cv0}[i, j] + \text{Cv0}[i-1, j-1] + \text{Cv0}[i-1, j+1] \\ & + \text{Cv0}[i+1, j-1] + \text{Cv0}[i+1, j+1]) / 8 \cdots \text{式 2 5} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{Ch}[i, j] = & (4 \cdot \text{Ch0}[i, j] + \text{Ch0}[i-1, j-1] + \text{Ch0}[i-1, j+1] \\ & + \text{Ch0}[i+1, j-1] + \text{Ch0}[i+1, j+1]) / 8 \cdots \text{式 2 6} \end{aligned}$$

《方法 2》

$$\begin{aligned} \text{Cv}[i, j] = & (4 \cdot \text{Cv0}[i, j] \\ & + 2 \cdot (\text{Cv0}[i-1, j-1] + \text{Cv0}[i+1, j-1] + \text{Cv0}[i-1, j+1] + \text{Cv0}[i+1, j+1]) \\ & + \text{Cv0}[i, j-2] + \text{Cv0}[i, j+2] + \text{Cv0}[i-2, j] + \text{Cv0}[i+2, j]) / 16 \cdots \text{式 2 7} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{Ch}[i, j] = & (4 \cdot \text{Ch0}[i, j] \\ & + 2 \cdot (\text{Ch0}[i-1, j-1] + \text{Ch0}[i+1, j-1] + \text{Ch0}[i-1, j+1] + \text{Ch0}[i+1, j+1]) \end{aligned}$$

$$+Ch0[i,j-2]+Ch0[i,j+2]+Ch0[i-2,j]+Ch0[i+2,j])/16 \cdots \text{式 2 8}$$

なお、《方法 1》は、図 4（1）に示すようにして緑色成分が欠落する画素と周辺画素とにおける類似度成分の加重加算を行うことに相当し、《方法 2》は、図 4（2）に示すようにして緑色成分が欠落する画素と周辺画素とにおける類似度成分の加重加算を行うことに相当する。

【 0 0 4 7 】

特に、《方法 2》によって算出される縦方向の類似度 $Cv[i,j]$ および横方向の類似度 $Ch[i,j]$ は、広範囲に位置する画素の色成分の色情報が反映されるため、例えば、倍率色収差が大きい画像に対する類似性の評価に有効である。

なお、縦方向の類似度 $Cv[i,j]$ および横方向の類似度 $Ch[i,j]$ は、値が小さい程、類似性が強いことを示す。

【 0 0 4 8 】

画像処理部 11 は、以上説明したようにして縦方向の類似度 $Cv[i,j]$ および横方向の類似度 $Ch[i,j]$ を算出すると、任意の閾値 $T1$ について、

$$|Cv[i,j]-Ch[i,j]|>T1 \quad \text{かつ} \quad Cv[i,j]<Ch[i,j]$$

が成り立つ場合、横方向よりも縦方向の類似性が強いと判断して指標 $HV[i,j]$ に 1 を設定し、

$$|Cv[i,j]-Ch[i,j]|>T1 \quad \text{かつ} \quad Cv[i,j]>Ch[i,j]$$

が成り立つ場合、縦方向よりも横方向の類似性が強いと判定して指標 $HV[i,j]$ に -1 を設定し、

$$|Cv[i,j]-Ch[i,j]| \leq T1$$

が成り立つ場合、縦横間で類似性に区別がつかないと判定して指標 $HV[i,j]$ に 0 を設定する。

【 0 0 4 9 】

なお、閾値 $T1$ は、縦方向の類似度 $Cv[i,j]$ と横方向の類似度 $Ch[i,j]$ との差異が微少である場合、ノイズの影響によって一方の類似性が強いと誤判定されることを避ける役割を果たす。そのため、閾値 $T1$ の値を高く設定することによって、ノイズの多い画像に対し、縦横類似性の判定の精度を高めることができる。

次に、画像処理部 11 は、以下の式 29～式 36 によって定義される斜め 45 度

方向および斜め135度方向に対する複数種類の類似度成分を算出する。

【 0 0 5 0 】

斜め45度方向のGG間類似度成分：

$$C45_1[i, j] = (|G[i, j-1] - G[i-1, j]| + |G[i+1, j] - G[i, j+1]|) / 2 \cdots \text{式 2 9}$$

斜め135度方向のGG間類似度成分：

$$C135_1[i, j] = (|G[i, j-1] - G[i+1, j]| + |G[i-1, j] - G[i, j+1]|) / 2 \cdots \text{式 3 0}$$

斜め45度方向のBB(RR)間類似度成分：

$$C45_2[i, j] = |Z[i+1, j-1] - Z[i-1, j+1]| \cdots \text{式 3 1}$$

斜め135度方向のBB(RR)間類似度成分：

$$C135_2[i, j] = |Z[i-1, j-1] - Z[i+1, j+1]| \cdots \text{式 3 2}$$

斜め45度方向のRR(BB)間類似度成分：

$$C45_3[i, j] = (|Z[i+2, j-2] - Z[i, j]| + |Z[i-2, j+2] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 3 3}$$

斜め135度方向のRR(BB)間類似度成分：

$$C135_3[i, j] = (|Z[i-2, j-2] - Z[i, j]| + |Z[i+2, j+2] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 3 4}$$

斜め45度方向のBR(RB)間類似度成分：

$$C45_4[i, j] = (|Z[i+1, j-1] - Z[i, j]| + |Z[i-1, j+1] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 3 5}$$

斜め135度方向のBR(RB)間類似度成分：

$$C135_4[i, j] = (|Z[i-1, j-1] - Z[i, j]| + |Z[i+1, j+1] - Z[i, j]|) / 2 \cdots \text{式 3 6}$$

次に、画像処理部 1 1 は、以下の式 3 7 および式 3 8 のように、加重係数 b_1, b_2, b_3, b_4 によって、複数種類の類似度成分を各々の方向毎に加重加算する。

【 0 0 5 1 】

$$C45_0[i, j] = (b_1 \cdot C45_1[i, j] + b_2 \cdot C45_2[i, j] + b_3 \cdot C45_3[i, j] + b_4 \cdot C45_4[i, j]) / (b_1 + b_2 + b_3 + b_4) \cdots \text{式 3 7}$$

$$C135_0[i, j] = (b_1 \cdot C135_1[i, j] + b_2 \cdot C135_2[i, j] + b_3 \cdot C135_3[i, j] + b_4 \cdot C135_4[i, j]) / (b_1 + b_2 + b_3 + b_4) \cdots \text{式 3 8}$$

なお、式 3 7 および式 3 8 において、加重係数 b_1, b_2, b_3, b_4 の比率としては、例えば、「 $b_1:b_2:b_3:b_4=2:1:1:2$ 」などが考えられる。

【 0 0 5 2 】

また、斜め45度方向および斜め135度方向に対する複数種類の類似度成分の算

出および加重加算は、前述した縦方向および横方向に対する複数種類の類似度成分と同様に、緑色成分が欠落する画素に対してだけでなく周辺画素に対しても行う。

画像処理部 1 1 は、緑色成分が欠落する画素と周辺画素とにおける類似度成分の加重加算の結果 ($C45_0[i, j]$ 、 $C45_0[i-1, j-1]$ 、 $C45_0[i-1, j+1]$ 、 $C45_0[i+1, j-1]$ 、 $C45_0[i+1, j+1]$ など) を、以下の《方法 1》または《方法 2》のように加重加算して、緑色成分が欠落する画素の斜め 45 度方向の類似度 $Cv[i, j]$ および斜め 135 度方向の類似度 $Ch[i, j]$ を算出する (図 4 (1)、(2) に示すように緑色成分が欠落する画素と周辺画素とにおける類似度成分の加重加算を行うことに相当する)。

【 0 0 5 3 】

《方法 1》

$$C45[i, j] = (4 \cdot C45_0[i, j] + C45_0[i-1, j-1] + C45_0[i+1, j-1] + C45_0[i-1, j+1] + C45_0[i+1, j+1]) / 8 \cdots \text{式 3 9}$$

$$C135[i, j] = (4 \cdot C135_0[i, j] + C135_0[i-1, j-1] + C135_0[i+1, j-1] + C135_0[i-1, j+1] + C135_0[i+1, j+1]) / 8 \cdots \text{式 4 0}$$

《方法 2》

$$C45[i, j] = (4 \cdot C45_0[i, j] + 2 \cdot (C45_0[i-1, j-1] + C45_0[i+1, j-1] + C45_0[i-1, j+1] + C45_0[i+1, j+1]) + C45_0[i, j-2] + C45_0[i, j+2] + C45_0[i-2, j] + C45_0[i+2, j]) / 16 \cdots \text{式 4 1}$$

$$C135[i, j] = (4 \cdot C135_0[i, j] + 2 \cdot (C135_0[i-1, j-1] + C135_0[i+1, j-1] + C135_0[i-1, j+1] + C135_0[i+1, j+1]) + C135_0[i, j-2] + C135_0[i, j+2] + C135_0[i-2, j] + C135_0[i+2, j]) / 16 \cdots \text{式 4 2}$$

なお、このようにして算出される斜め 45 度方向の類似度 $C45[i, j]$ および斜め 135 度方向の類似度 $C135[i, j]$ において、複数種類の類似度成分や周辺画素との加重加算は、前述した縦方向の類似度 $Cv[i, j]$ および横方向の類似度 $Ch[i, j]$ と同様の役割を果たす。また、第 1 の実施形態において、斜め 45 度方向の類似度 $C45[i, j]$ および斜め 135 度方向の類似度 $C135[i, j]$ は、値が小さい程、類似性が強いことを示す。

【 0 0 5 4 】

画像処理部 1 1 は、以上説明したようにして斜め45度方向の類似度 $C45[i, j]$ および斜め135度方向の類似度 $C135[i, j]$ を算出すると、任意の閾値 $T2$ について、

$$|C45[i, j] - C135[i, j]| > T2 \quad \text{かつ} \quad C45[i, j] < C135[i, j]$$

が成り立つ場合、斜め135度方向よりも斜め45度方向の類似性が強いと判定して指標 $DN[i, j]$ に 1 を設定し、

$$|C45[i, j] - C135[i, j]| > T2 \quad \text{かつ} \quad C45[i, j] > C135[i, j]$$

が成り立つ場合、斜め45度方向よりも斜め135度方向の類似性が強いと判定して指標 $DN[i, j]$ に - 1 を設定し、

$$|C45[i, j] - C135[i, j]| \leq T2$$

が成り立つ場合、斜め方向間で類似性に区別がつかないと判定して指標 $DN[i, j]$ に 0 を設定する。

【 0 0 5 5 】

なお、閾値 $T2$ は、前述した閾値 $T1$ と同様に、ノイズの影響によって一方の類似性が強いと誤判定されることを避ける役割を果たす。

以上説明したようにして、緑色成分が欠落する画素毎に、縦横類似性を示す指標 HV と斜め類似性を示す指標 DN とを設定すると、画像処理部 1 1 は、 G 補間処理を行うべき画素の座標を $[i, j]$ に設定する（図 3 S 2）。

【 0 0 5 6 】

なお、図 3 S 2 の処理は繰り返し行われるが、このような繰り返しの過程において、 $[i, j]$ には、画像の左上から右下に至るまでの画素のうち、緑色成分が欠落する画素の座標が順次設定されるものとする。

次に、画像処理部 1 1 は、縦横類似性を示す指標 $HV[i, j]$ の値と斜め類似性を示す指標 $DN[i, j]$ の値との組み合わせに応じて、緑の補間値を算出して $G'[i, j]$ に設定する（図 3 S 3）。

【 0 0 5 7 】

例えば、画像処理部 1 1 は、座標 $[i, j]$ に位置する画素を、縦横類似性を示す指標 $HV[i, j]$ の値と斜め類似性を示す指標 $DN[i, j]$ の値との組み合わせに応じて、以下のcase1～case9の何れかに分類する。

case1: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (1, 1)$: 縦および斜め45度方向の類似性が強い。

case2: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (1, 0)$: 縦方向の類似性が強い。

【 0 0 5 8 】

case3: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (1, -1)$: 縦および斜め135度方向の類似性が強い。

case4: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (0, 1)$: 斜め45度方向の類似性が強い。

case5: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (0, 0)$: 全ての方向の類似性が強い、または、全ての方向の類似性が弱い。

case6: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (0, -1)$: 斜め135度方向の類似性が強い。

【 0 0 5 9 】

case7: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (-1, 1)$: 横および斜め45度方向の類似性が強い。

case8: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (-1, 0)$: 横方向の類似性が強い。

case9: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (-1, -1)$: 横および斜め135度方向の類似性が強い。

そして、画像処理部 1 1 は、前述した分類に応じて、以下のようにして算出される値を、緑の補間値として $G'[i, j]$ に設定する。

【 0 0 6 0 】

case1のとき、 $G'[i, j] = Gv45[i, j]$

case2のとき、 $G'[i, j] = Gv[i, j]$

case3のとき、 $G'[i, j] = Gv135[i, j]$

case4のとき、 $G'[i, j] = (Gv45[i, j] + Gh45[i, j]) / 2$

case5のとき、 $G'[i, j] = (Gv[i, j] + Gh[i, j]) / 2$

case6のとき、 $G'[i, j] = (Gv135[i, j] + Gh135[i, j]) / 2$

case7のとき、 $G'[i, j] = Gh45[i, j]$

case8のとき、 $G'[i, j] = Gh[i, j]$

case9のとき、 $G'[i, j] = Gh135[i, j]$

ただし、

$$\begin{aligned} Gv[i, j] = & (G[i, j-1] + G[i, j+1]) / 2 \\ & + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i, j-2] - Z[i, j+2]) / 8 \\ & + (2 \cdot G[i-1, j] - G[i-1, j-2] - G[i-1, j+2] \\ & + 2 \cdot G[i+1, j] - G[i+1, j-2] - G[i+1, j+2]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
Gv45[i, j] &= (G[i, j-1] + G[i, j+1]) / 2 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i, j-2] - Z[i, j+2]) / 8 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i-1, j+1] - Z[i-1, j-1] - Z[i-1, j+3] \\
&\quad \quad + 2 \cdot Z[i+1, j-1] - Z[i+1, j-3] - Z[i+1, j+1]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 4} \\
Gv135[i, j] &= (G[i, j-1] + G[i, j+1]) / 2 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i, j-2] - Z[i, j+2]) / 8 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i-1, j-1] - Z[i-1, j-3] - Z[i-1, j+1] \\
&\quad \quad + 2 \cdot Z[i+1, j+1] - Z[i+1, j-1] - Z[i+1, j+3]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 5} \\
Gh[i, j] &= (G[i-1, j] + G[i+1, j]) / 2 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i-2, j] - Z[i+2, j]) / 8 \\
&\quad + (2 \cdot G[i, j-1] - G[i-2, j-1] - G[i+2, j-1] \\
&\quad \quad + 2 \cdot G[i, j+1] - G[i-2, j+1] - G[i+2, j+1]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 6} \\
Gh45[i, j] &= (G[i-1, j] + G[i+1, j]) / 2 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i-2, j] - Z[i+2, j]) / 8 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i+1, j-1] - Z[i-1, j-1] - Z[i+3, j-1] \\
&\quad \quad + 2 \cdot Z[i-1, j+1] - Z[i-3, j+1] - Z[i+1, j+1]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 7} \\
Gh135[i, j] &= (G[i-1, j] + G[i+1, j]) / 2 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i, j] - Z[i-2, j] - Z[i+2, j]) / 8 \\
&\quad + (2 \cdot Z[i-1, j-1] - Z[i-3, j-1] - Z[i+1, j-1] \\
&\quad \quad + 2 \cdot Z[i+1, j+1] - Z[i-1, j+1] - Z[i+3, j+1]) / 16 \quad \cdots \text{式 4 8}
\end{aligned}$$

である。

【 0 0 6 1 】

図 5 は、緑の補間値を算出する際に用いる色情報の位置を示す図である。

図 5 において、○印が付与された画素の色情報は、緑の補間値を構成する変曲情報に寄与する色情報である。

図 6 は、 $(HV[i, j], DN[i, j])$ の値に対応する類似性の強い方向を示す図である。

なお、図 6 では、「case5: $(HV[i, j], DN[i, j]) = (0, 0)$ 」に対応する表示がされていないが、case5 は、全ての方向の類似性が強い(平坦部)、または、全ての方

向の類似性が弱い(孤立輝点)、または、全ての方向の類似性が均等(高密度のチェックパターン)であることに相当する。このような高密度のチェックパターンは、本来の画像に存在せず、視覚的に目立ち、ノイズとして画質を低下させる。

【 0 0 6 2 】

そこで、第 1 の実施形態では、以下に示すように、case5 に分類された画素の周辺画素に平滑化処理を行うことによって、高密度のチェックパターンを除去する。

まず、画像処理部 1 1 は、座標 $[i, j]$ に位置する画素(補間値を算出した画素)の縦横類似性を示す指標 $HV[i, j]$ の値と斜め類似性を示す指標 $DN[i, j]$ の値とが、共に 0 であるか否か(座標 $[i, j]$ に位置する画素が case5 に分類されたか否か)を判定する(図 3 S 4)。

【 0 0 6 3 】

そして、画像処理部 1 1 は、指標 $HV[i, j]$ と指標 $DN[i, j]$ との値が共に 0 である場合(座標 $[i, j]$ に位置する画素が case5 に分類される場合)、座標 $[i+1, j]$ に位置する画素(補間値を算出した画素の右方向に隣接する画素)の平滑化処理の結果として、 $G'[i+1, j]$ を式 4 9 によって算出し、座標 $[i, j+1]$ に位置する画素(補間値を算出した画素の下方方向に隣接する画素)の平滑化処理の結果として、 $G'[i, j+1]$ を式 5 0 によって算出する(図 3 S 5)。

【 0 0 6 4 】

$$G'[i+1, j] = (k1 \cdot G[i, j-1] + k2 \cdot G[i+1, j] + k3 \cdot G[i, j+1]) / (k1 + k2 + k3) \quad \cdots \text{式 4 9}$$

$$G'[i, j+1] = (k4 \cdot G[i-1, j] + k5 \cdot G[i, j+1] + k6 \cdot G[i+1, j]) / (k4 + k5 + k6) \quad \cdots \text{式 5 0}$$

すなわち、式 4 9 に示す演算は、座標 $[i+1, j]$ に位置する画素の緑色成分の色情報を、座標 $[i, j-1]$ 、 $[i+1, j]$ 、 $[i, j+1]$ に位置する画素の緑色成分の色情報を加重加算した値に置き換えることに相当する。また、式 5 0 に示す演算は、座標 $[i, j+1]$ に位置する画素の緑色成分の色情報を、座標 $[i-1, j]$ 、 $[i, j+1]$ 、 $[i+1, j]$ に位置する画素の緑色成分の色情報を加重加算した値に置き換えることに相当する。

【 0 0 6 5 】

なお、式 4 9 および式 5 0 では、 $k1 \sim k6$ の値を変えることによって、平滑化の

程度を変えるができるが、例えば、 $k_1 \sim k_6$ の値を「 $k_1=k_3=k_4=k_6=1$ 、 $k_2=k_5=2$ 」に設定することは、完全に平滑化することを意味する。また、平滑化を弱くする場合には、例えば、 $k_1 \sim k_6$ の値を「 $k_1=k_3=k_4=k_6=1$ 、 $k_2=k_5=6$ 」に設定すれば良い。

ところで、case5に分類されない画素の周辺に位置する画素では、平滑化処理の結果として、式49や式50のように算出される値を設定する必要はなく、緑色成分の色情報を、そのまま設定すれば良い。しかし、case5に分類されない画素の上方向に隣接する画素と右方向に隣接する画素とには、先行する処理において、式49や式50のようにして算出される値が、平滑化処理の結果として設定されている可能性がある。

【0066】

そこで、画像処理部11は、指標 $HV[i, j]$ と指標 $DN[i, j]$ との少なくとも1つの値が0でない場合（座標 $[i, j]$ に位置する画素がcase5に分類されない場合）、座標 $[i, j-1]$ に位置する画素（座標 $[i, j]$ に位置する画素の上方向に隣接する画素）に対する平滑化処理の結果を示す値 $G'[i, j-1]$ と、座標 $[i-1, j]$ に位置する画素（座標 $[i, j]$ に位置する画素の右方向に隣接する画素）に対する平滑化処理の結果を示す値 $G'[i-1, j]$ とを、以下の式51および式52のように、元の緑色成分の色情報に戻す（図3S6）。

【0067】

$$G'[i, j-1] = G[i, j-1] \quad \cdots \text{式51}$$

$$G'[i-1, j] = G[i-1, j] \quad \cdots \text{式52}$$

次に、画像処理部11は、G補間処理の対象となる全ての画素の座標が $[i, j]$ に設定されたか否かを判定し（図3S7）、G補間処理の対象となる画素のうち、 $[i, j]$ に座標が設定されていない画素が存在する場合、図3S2以降の処理を繰り返し行う。

【0068】

すなわち、第1の実施形態では、緑の補間値と平滑化処理の結果を示す値とが、 $G'[i, j]$ に設定されることになる。

以上説明したように、第1の実施形態では、緑色成分の色情報が欠落する画素が、case5に分類される場合、その画素の右方向に隣接する画素と下方向に隣接

する画素との平滑化処理の結果を示す値として、局所領域内の緑色成分の色情報を加重加算した値を設定し、緑色成分の色情報が欠落する画素が、case5に分類されない場合、その画素の上方向に隣接する画素と左方向に隣接する画素との平滑化処理の結果を示す値として、元の緑色成分の色情報を設定する。

【 0 0 6 9 】

したがって、第1の実施形態では、平坦な領域、または、孤立輝点を示す領域、または、高密度のチェックパターンを示す領域が平滑化されるので、平滑化によって画像本来の構造が損なわれることがない。

【 0 0 7 0 】

なお、第1の実施形態では、縦横類似性を示す指標HVと斜め類似性を示す指標DNとの設定を、緑色成分が欠落する全ての画素に対して予め行ってから、緑の補間値の算出と平滑化処理とを行っているが、指標HVおよび指標DNの設定は、緑の補間値を算出する直前に随時行われても良い。

また、第1の実施形態では、平滑化処理の結果を示す値として、case5に分類された画素に隣接する画素（ただし、第1の実施形態では、右方向に隣接する画素と下方向に隣接する画素に限られる）に、局所領域内の緑色成分の色情報を加重加算した値を設定し、case5に分類されない画素に隣接する画素（ただし、第1の実施形態では、上方向に隣接する画素と左方向に隣接する画素に限られる）に、元の緑色成分の色情報を設定することによって、平滑化処理を実現しているが、このような平滑化処理は、図7のようにして実現することもできる。

【 0 0 7 1 】

すなわち、図7において、画像処理部11は、 $[i, j]$ にG補間処理の対象となる画素の座標を順次設定し、G補間処理の対象となる画素に緑の補間値の算出を行う（図7 S3）と共に、G補間処理の対象となる画素がcase5に分類された場合には（図7 S4のYES側）、その画素に隣接する4つの画素の平滑化処理の結果を示す値として、局所領域内の緑色成分の色情報を加重加算した値を設定する（図7 S5）。そして、G補間処理の対象となる全ての画素に対して、これらの処理が完了すると、 $[i, j]$ にG補間処理の対象となった画素の座標を順次設定し、G補間処理の対象となった画素がcase5に分類されない場合には（図7 S8

のNO側)、その画素に隣接する4つの画素の平滑化処理の結果を示す値として、元の緑色成分の色情報を設定する(図7S9)。

【0072】

《第2の実施形態》

図8は、第2の実施形態における画像処理部11の動作フローチャートであるが、画像処理部11の動作のうち、G補間処理および平滑化処理の動作を示している。

【0073】

以下、第2の実施形態の動作を説明するが、ここでは、図8を参照して画像処理部11によるG補間処理および平滑化処理の動作を説明し、他の動作の説明は省略する。なお、第2の実施形態は、請求項1、請求項3、請求項4、請求項7ないし請求項9に対応する。

まず、画像処理部11は、第1の実施形態と同様に、緑色成分が欠落する全ての画素に対し、縦方向および横方向の類似度を算出して、縦横類似性を示す指標HVを設定すると共に、斜め方向の類似度を算出して、斜め類似性を示す指標DNを設定する(図8S1)。

【0074】

次に、画像処理部11は、第1の実施形態と同様に、G補間処理を行うべき画素の座標を[i,j]に設定し(図8S2)、縦横類似性を示す指標HV[i,j]の値と斜め類似性を示す指標DN[i,j]の値との組み合わせに応じて、緑の補間値G[i,j]を算出する(図8S3)。

次に、画像処理部11は、座標[i,j]に位置する画素の縦横類似性を示す指標HV[i,j]および斜め類似性を示す指標DN[i,j]の値と、座標[i+2,j]に位置する画素の縦横類似性を示す指標HV[i+2,j]および斜め類似性を示す指標DN[i+2,j]の値の値とに、

$(HV[i,j], DN[i,j]) = (0, 0)$ かつ $(HV[i+2,j], DN[i+2,j]) = (0, 0)$ …条件1
が成り立つか否かを判定する(図8S4)。

【0075】

そして、条件1が成り立つ場合、補間値を算出した画素の右方向に隣接する画

素（座標 $[i+1, j]$ に位置する画素）に対する平滑化処理の結果として、 $G' [i+1, j]$ を、

$$G' [i+1, j] = (k1 \cdot G [i, j-1] + k2 \cdot G [i+1, j] + k3 \cdot G [i, j+1]) / (k1 + k2 + k3) \cdots \text{式 4 9}$$

によって算出する（図 8 S 5）。

【 0 0 7 6 】

すなわち、画像処理部 1 1 は、縦横間で類似性に区別つかない画素に左右が挟まれる画素に対してのみ、平滑化処理の結果として、式 4 9 で算出される値を設定することになる。

【 0 0 7 7 】

また、画像処理部 1 1 は、座標 $[i, j]$ に位置する画素の縦横類似性を示す指標 $HV [i, j]$ および斜め類似性を示す指標 $DN [i, j]$ の値と、座標 $[i, j+2]$ に位置する画素の縦横類似性を示す指標 $HV [i, j+2]$ および斜め類似性を示す指標 $DN [i+2, j]$ の値とに、

$(HV [i, j], DN [i, j]) = (0, 0)$ かつ $(HV [i, j+2], DN [i, j+2]) = (0, 0) \cdots \text{条件 2}$ が成り立つか否かを判定する（図 8 S 6）。そして、条件 2 が成り立つ場合、補間値を算出した画素の下方方向に隣接する画素（座標 $[i, j+1]$ に位置する画素）に対する平滑化処理の結果として、 $G' [i, j+1]$ を、

$$G' [i, j+1] = (k4 \cdot G [i-1, j] + k5 \cdot G [i, j+1] + k6 \cdot G [i+1, j]) / (k4 + k5 + k6) \cdots \text{式 5 0}$$

によって算出する（図 8 S 7）。

【 0 0 7 8 】

すなわち、画像処理部 1 1 は、縦横間で類似性に区別つかない画素に上下が挟まれる画素に対してのみ、平滑化処理の結果として、式 5 0 で算出される値を設定することになる。

次に、画像処理部 1 1 は、G 補間処理の対象となる全ての画素の座標が $[i, j]$ に設定されたか否かを判定し（図 8 S 8）、G 補間処理の対象となる画素のうち、 $[i, j]$ に座標が設定されていないが画素が存在する場合、図 8 S 2 以降の処理を繰り返し行う。

【 0 0 7 9 】

すなわち、第 2 の実施形態では、緑の補間値と平滑化処理の結果を示す値とが

、 $G'[i, j]$ に設定されることになる。

以上説明したように、第 2 の実施形態では、緑色成分の色情報が存在する画素のうち、縦横間で類似性に区別つかない画素に挟まれる画素に対してのみ、平滑化処理の結果を示す値として、局所領域内の緑色成分の色情報を加重加算した値を設定する。

【0080】

したがって、第 2 の実施形態では、第 1 の実施形態と同様に、平坦な領域、または、孤立輝点を示す領域、または、高密度のチェックパターンを示す領域が平滑化されるので、平滑化によって画像本来の構造が損なわれることがない。

また、第 2 の実施形態では、縦横間で類似性に区別つかない画素に挟まれる画素に対してのみ、平滑化処理の結果として、式 4 9 や式 5 0 で算出された値が設定されるので、第 1 の実施形態で必要であって「 $G'[i, j-1]$ と $G'[i-1, j]$ とを元の緑色成分の色情報に戻す処理（図 3 S 6）」が不要となる。

【0081】

なお、第 2 の実施形態では、条件 1 が成り立つ場合に $G'[i+1, j]$ を式 4 9 によって算出し、条件 2 が成り立つ場合に $G'[i, j+1]$ を式 5 0 によって算出しているが、以下の条件 3 が成り立つ場合、式 4 9 および式 5 0 によって $G'[i+1, j]$ および $G'[i, j+1]$ を算出しても良い。

$(HV[i, j], DN[i, j]) = (0, 0)$ かつ $(HV[i+1, j+1], DN[i+1, j+1]) = (0, 0) \cdots$ 条件 3

また、前述した各実施形態では、緑の補間値が算出される前に設定した縦横類似性を示す指標 HV と、斜め類似性を示す指標 DN とを用いて、式 4 9 や式 5 0 の演算を行うか否かの判定（図 3 S 4、図 8 S 4 や 5 S 6 に相当する）を行っているが、このような判定を行う際に用いる指標は、緑の補間値を算出した状態で改めて設定し直しても良い。

【0082】

さらに、前述した各実施形態では、縦横類似性を示す指標 HV と、斜め類似性を示す指標 DN とを用いて、式 4 9 や式 5 0 の演算を行うか否かの判定（図 3 S 4、図 8 S 4 や S 6 に相当する）を行っているが、このような判定は、縦横類似性を示す指標 HV のみを用いて行っても良い。

《第 3 の実施形態》

図 9 は、第 3 の実施形態における画像処理部 1 1 の動作フローチャートであるが、画像処理部 1 1 の動作のうち、平滑化処理の動作を示している。

【0 0 8 3】

なお、第 3 の実施形態では、平滑化処理の対象となる画像として、予め補間処理が行われ、全ての画素に対して緑色成分の色情報が存在する画像を用いるが、第 3 の実施形態の平滑化処理は、表色系を変換することによって得られる輝度を示す画像に対して行うこともできる。

【0 0 8 4】

また、第 3 の実施形態の平滑化処理は、画像内の全ての画素に対して行っても良いが、第 1 の実施形態および第 2 の実施形態の座標 $[i, j-1]$ に位置する画素のように、緑色成分の色情報が元々存在する画素のみを平滑化処理の対象としても良い。

以下、第 3 の実施形態の動作を説明するが、ここでは、図 9 を参照して画像処理部 1 1 による平滑化処理の動作を説明し、他の動作の説明は省略する。なお、第 3 の実施形態は、請求項 1、請求項 2、請求項 8、請求項 9 に対応する。

【0 0 8 5】

まず、画像処理部 1 1 は、平滑化処理の対象となる画素の座標を $[m, n]$ に設定する（図 9 S 1）。

なお、図 9 S 1 の処理は繰り返し行われるが、このような繰り返しの過程において、 $[m, n]$ には、画像の左上から右下に至るまでの画素のうち、平滑化処理の対象となる画素の座標が順次設定されるものとする。

【0 0 8 6】

次に、画像処理部 1 1 は、座標 $[m, n]$ における縦方向および横方向の類似度を算出して、縦横類似性を示す指標 $HV[m, n]$ を設定すると共に、斜め方向の類似度を算出して、斜め類似性を示す指標 $DN[m, n]$ を設定する（図 9 S 2）。

例えば、画像処理部 1 1 は、座標 $[m, n]$ における縦方向の類似度 $Cv[m, n]$ 、横方向の類似度 $Ch[m, n]$ 、斜め 45 度方向の類似度 $C45[m, n]$ および斜め 135 度方向の類似度 $C135[m, n]$ を、

$$\begin{aligned} C_v[m,n] = & |G[m,n] - G[m,n-1]| + |G[m,n] - G[m,n+1]| \\ & + |G[m-1,n] - G[m-1,n-1]| + |G[m-1,n] - G[m-1,n+1]| \\ & + |G[m+1,n] - G[m+1,n-1]| + |G[m+1,n] - G[m+1,n+1]| \quad \cdots \text{式 5 3} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} C_h[m,n] = & |G[m,n] - G[m-1,n]| + |G[m,n] - G[m+1,n]| \\ & + |G[m,n-1] - G[m-1,n-1]| + |G[m,n-1] - G[m+1,n-1]| \\ & + |G[m,n+1] - G[m-1,n+1]| + |G[m,n+1] - G[m+1,n+1]| \quad \cdots \text{式 5 4} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} C_{45}[m,n] = & |G[m,n] - G[m-1,n+1]| + |G[m,n] - G[m+1,n-1]| \\ & + |G[m-1,n] - G[m,n-1]| + |G[m,n+1] - G[m+1,n]| \quad \cdots \text{式 5 5} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} C_{135}[m,n] = & |G[m,n] - G[m-1,n-1]| + |G[m,n] - G[m+1,n+1]| \\ & + |G[m-1,n] - G[m,n+1]| + |G[m,n-1] - G[m+1,n]| \quad \cdots \text{式 5 6} \end{aligned}$$

によって算出する。

【 0 0 8 7 】

次に、画像処理部 1 1 は、任意の閾値Th1について、

$$|C_v[m,n] - C_h[m,n]| \leq Th1$$

が成り立つ場合、縦横間で類似性に区別がつかないと判定して指標HV[m,n]に0を設定し、

$$|C_v[m,n] - C_h[m,n]| > Th1 \quad \text{かつ} \quad C_v[m,n] < C_h[m,n]$$

が成り立つ場合、横方向よりも縦方向の類似性が強いと判断して指標HV[m,n]に1を設定し、

$$|C_v[m,n] - C_h[m,n]| > Th1 \quad \text{かつ} \quad C_v[m,n] \geq C_h[m,n]$$

が成り立つ場合、縦方向よりも横方向の類似性が強いと判定して指標HV[m,n]に-1を設定する。

【 0 0 8 8 】

また、画像処理部 1 1 は、任意の閾値Th2について、

$$|C_{45}[m,n] - C_{135}[m,n]| \leq Th2$$

が成り立つ場合、斜め方向間で類似性に区別がつかないと判定して指標DN[m,n]に0を設定し、

$$|C_{45}[m,n] - C_{135}[m,n]| > Th2 \quad \text{かつ} \quad C_{45}[m,n] < C_{135}[m,n]$$

が成り立つ場合、斜め135度方向よりも斜め45度方向の類似性が強いと判定して

指標DN[m,n]に1を設定し、

$$|C45[m,n]-C135[m,n]| > Th2 \text{ かつ } C45[m,n] \geq C135[m,n]$$

が成り立つ場合、斜め45度方向よりも斜め135度方向の類似性が強いと判定して指標DN[m,n]に-1を設定する。

【0089】

以上説明したようにして、縦横類似性を示す指標HV[m,n]と斜め類似性を示す指標DN[m,n]とを設定すると、画像処理部11は、指標HV[m,n]の値と指標DN[m,n]の値とが、共に0であるか否かを判定する(図9S3)。

【0090】

そして、画像処理部11は、指標HV[m,n]と指標DN[m,n]との値が共に0である場合、座標[m,n]に位置する画素に対する平滑化処理の結果として、G'[m,n]を、

$$G'[m,n] = (k1 \cdot G[m-1,n-1] + k2 \cdot G[m+1,n-1] + k3 \cdot G[m,n] + k4 \cdot G[m-1,n+1] + k5 \cdot G[m+1,n+1]) / (k1+k2+k3+k4+k5) \cdots \text{式57}$$

によって算出する(図9S4)。

【0091】

すなわち、式57に示す演算は、座標[m,n]に位置する画素の緑色成分の色情報を、座標[m-1,n-1]、[m+1,n-1]、[m,n]、[m-1,n+1]、[m+1,n+1]に位置する画素の緑色成分の色情報を加重加算した値に置き換えることに相当する。

なお、式57では、k1~k5の値を変えることによって、平滑化の度合いを変えるができるが、例えば、k1~k5の値を「k1=k2=k4=k5=1、k3=4」に設定することは、完全に平滑化することを意味する。また、平滑化を弱くする場合には、k1~k5の値を「k1=k2=k4=k5=1、k3=12」に設定すれば良い。

【0092】

次に、画像処理部11は、平滑化処理の対象となる全ての画素の座標が[m,n]に設定されたか否かを判定し(図9S5)、平滑化処理の対象となる画素のうち、[m,n]に座標が設定されていないが画素が存在する場合、図9S1以降の処理を繰り返し行う。

すなわち、第3の実施形態では、平滑化処理の結果を示す値が、G'[m,n]に設定されることになる。

【 0 0 9 3 】

以上説明したように、第 3 の実施形態では、縦横間および斜め方向間で類似性に区別つかない画素に対してのみ、平滑化処理の結果を示す値として、局所領域内の緑色成分の色情報を加重加算した値を設定するので、平坦な領域、または、孤立輝点を示す領域、または、高密度のチェックパターンを示す領域が平滑化されることになり、平滑化によって画像本来の構造が損なわれることがない。

【 0 0 9 4 】

なお、第 3 の実施形態では、縦横類似性を示す指標 HV と、斜め類似性を示す指標 DN とを用いて、式 5 7 の演算を行うか否かの判定（図 9 S 3 に相当する）を行っているが、このような判定は、縦横類似性を示す指標 HV のみを用いて行っても良い。

《第 4 の実施形態》

以下、第 4 の実施形態の動作を説明する。

【 0 0 9 5 】

なお、第 4 の実施形態は、請求項 1 0 ないし請求項 1 2 に記載の画像処理プログラムを記録した記録媒体を用いて、図 1 に示す PC 1 8 によって画像処理を実行することに相当する。

ただし、PC 1 8 には、CD-ROM 2 8 などの記録媒体に記録された画像処理プログラム（前述した各実施形態の画像処理部 1 1 と同様にして補間処理や平滑化処理を実行する画像処理プログラム）が予めインストールされているものとする。すなわち、PC 1 8 内の不図示のハードディスクには、このような画像処理プログラムが不図示の CPU によって実行可能な状態に格納されている。

【 0 0 9 6 】

以下、図 1 を参照して第 4 の実施形態の動作を説明する。

まず、電子カメラ 1 は、操作部 2 4 を介し、操作者によって撮影モードが選択されてリリースボタンが押されると、撮像素子 2 1 で生成されてアナログ信号処理部 2 2 で所定のアナログ信号処理が施された画像信号を、A/D 変換部 1 0 でデジタル化し、画像データとして、画像処理部 1 1 に供給する。画像処理部 1 1 は、このようにして供給された画像データに対し、補間処理や平滑化処理を除

く画像処理（例えば、階調変換や γ 補正等）を行う。画像処理が完了した画像データは、メモ리카ード用インタフェース部17を介してメモ리카ード16に記録される。

【0097】

次に、電子カメラ1は、操作部24を介し、操作者によってPC通信モードが選択された状態で、外部インタフェース部19を介し、PC18から画像データの転送が指示されると、その指示に対応する画像データを、メモ리카ード用インタフェース部17を介してメモ리카ード16から読み出す。そして、このようにして読み出した画像データを、外部インタフェース部19を介してPC18に供給する。

【0098】

PC18内の不図示のCPUは、このようにして画像データが供給されると、前述した画像処理プログラムを実行する。なお、このような画像処理プログラムの実行によって補間処理や平滑化処理が行われた画像データは、必要に応じて圧縮処理して不図示のハードディスクに記録したり、モニタ26やプリンタ27で採用されている表色系に変換して各々に供給しても良い。

【0099】

以上説明したように、第4の実施形態では、前述した各実施形態と同様の画像処理（補間処理や平滑化処理）をPC18によって行うことができる。

なお、PC18内の不図示のCPUは、前述したように画像データが記録されたメモ리카ード16が装着された場合、そのメモ리카ード16から画像データを読み出し、前述した画像処理プログラムを実行しても良い。

【0100】

また、PC18内の不図示のCPUは、電子カメラ1の画像処理部11で補間処理や平滑化処理が行われた画像データであっても、その画像データが、PC18への転送に際して伝送容量の削減のために解像度が1/4に間引き圧縮されている場合、前述した画像処理プログラムを実行しても良い。

【0101】

【発明の効果】

以上説明したように、請求項 1 および請求項 1 0 に記載の発明は、着目画素と着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、着目画素の少なくとも 1 つの色成分に対し、選択的に平滑化を行うので、画像データの全体が一様に平滑化されることがない。また、請求項 2 ないし請求項 9、請求項 1 1、請求項 1 2 に記載の発明は、類似度算出手段で算出した類似度が特定の特徴を示す画素と、その画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行うので、画像データの全体が一様に平滑化されることがない。

【0 1 0 2】

そのため、請求項 1 ないし請求項 1 2 に記載の発明によれば、画像本来の構造を残しつつ、平滑化を行うことが可能である。

特に、請求項 8 および請求項 9 に記載の発明は、少なくとも 2 つの異なる方向に対する類似度が同程度となる画素と、その画素の近傍に位置する画素とから選択した画素が有する色成分の色情報に平滑化を行うので、構造が方向性を持って変化する部分では平滑化が行われず、画像本来の解像度が低下したり、偽色が発生することがない。そのため、画像本来の構造を残しつつ、平滑化を行うことができる。

【0 1 0 3】

また、請求項 4 ないし請求項 7 に記載の発明は、平滑化を行うべき画素を確実に選択することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

電子カメラの機能ブロック図である。

【図 2】

第 1 の実施形態および第 2 の実施形態における画像データの色成分の配列を示す図である。

【図 3】

第 1 の実施形態における画像処理部の動作フローチャートである。

【図 4】

類似度成分の加重加算を説明する図である。

【図 5】

緑の補間値を算出する際に用いる色情報の位置を示す図である。

【図 6】

$(HV[i, j], DN[i, j])$ の値に対応する類似性の強い方向を示す図である。

【図 7】

第 1 の実施形態に類似する画像処理部の動作フローチャートである。

【図 8】

第 2 の実施形態における画像処理部の動作フローチャートである。

【図 9】

第 3 の実施形態における画像処理部の動作フローチャートである。

【図 1 0】

色情報の値の例を示す図である。

【符号の説明】

- 1 電子カメラ
- 1 0 A/D変換部
- 1 1 画像処理部
- 1 2 制御部
- 1 3 メモリ
- 1 4 圧縮／伸長部
- 1 5 表示画像生成部
- 1 6 メモリカード
- 1 7 メモリカード用インタフェース部
- 1 8 PC（パーソナルコンピュータ）
- 1 9 外部インタフェース部
- 2 0 撮影光学系
- 2 1 撮像素子
- 2 2 アナログ信号処理部
- 2 3 タイミング制御部
- 2 4 操作部

2 5、2 6 モニタ

2 7 プリンタ

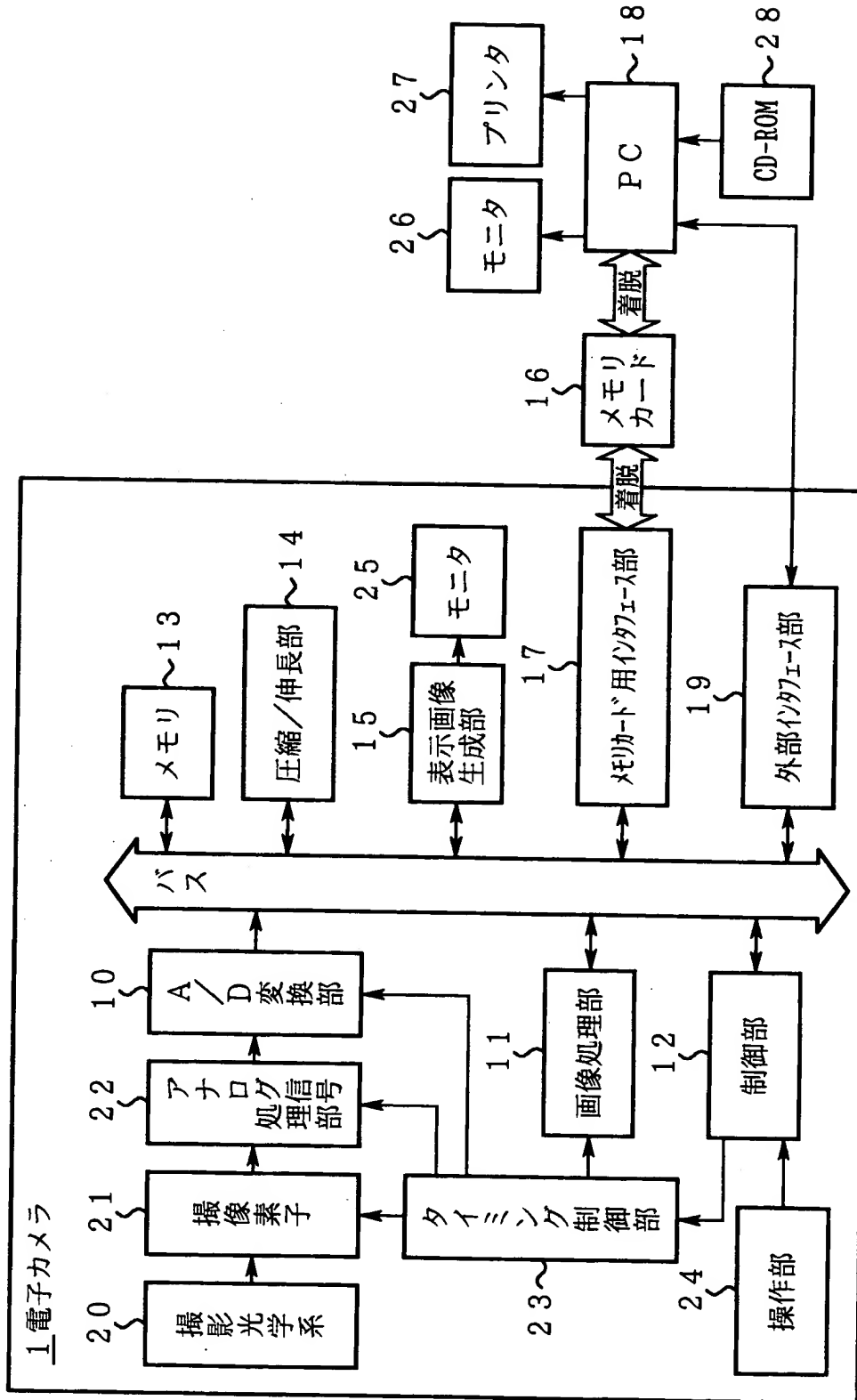
2 8 C D - R O M

【書類名】

図面

【図 1】

電子カメラの機能ブロック図



【図 2】

第 1 の実施形態および第 2 の実施形態における画像データの色成分の配列を示す図

座標[X, Y]	i-3	i-2	i-1	i	i+1	i+2	i+3
j-3	B	G	B	G	B	G	B
j-2	G	R	G	R	G	R	G
j-1	B	G	B	G	B	G	B
j	G	R	G	R	G	R	G
j+1	B	G	B	G	B	G	B
j+2	G	R	G	R	G	R	G
j+3	B	G	B	G	B	G	B

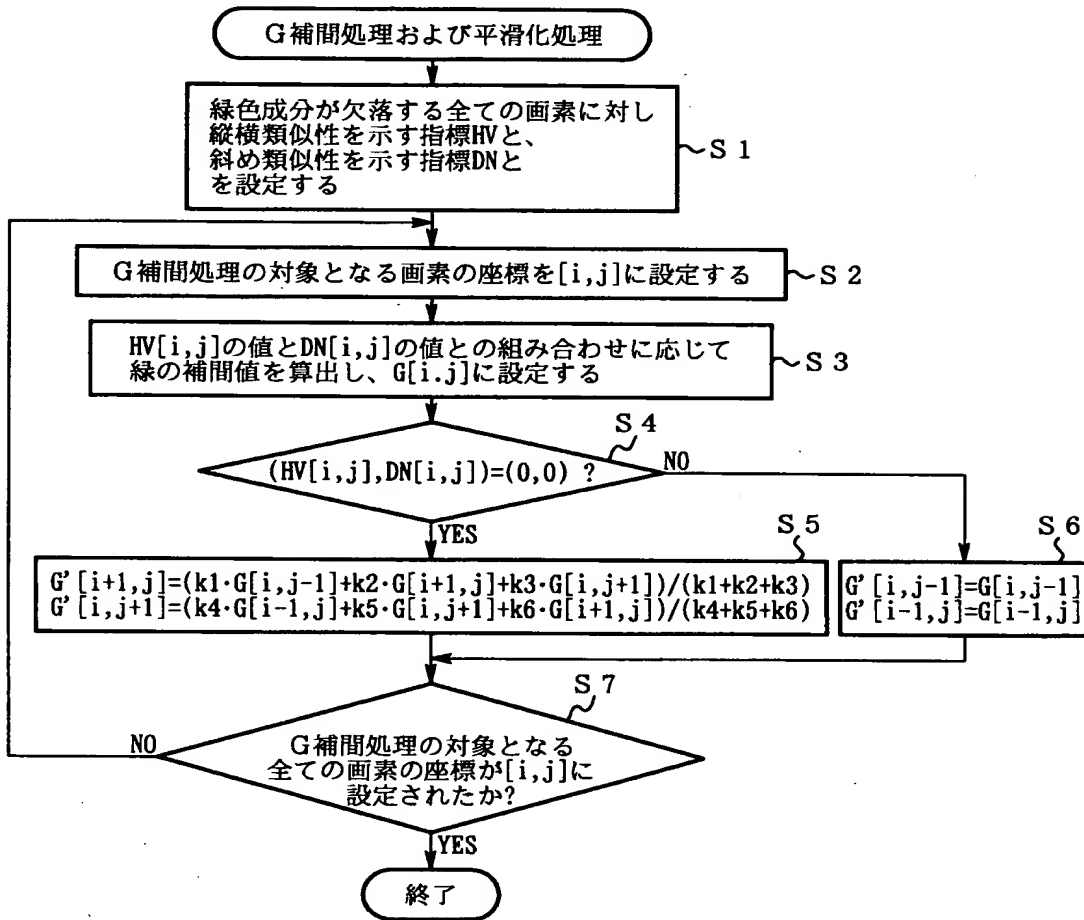
(1)

座標[X, Y]	i-3	i-2	i-1	i	i+1	i+2	i+3
j-3	R	G	R	G	R	G	R
j-2	G	B	G	B	G	B	G
j-1	R	G	R	G	R	G	R
j	G	B	G	B	G	B	G
j+1	R	G	R	G	R	G	R
j+2	G	B	G	B	G	B	G
j+3	R	G	R	G	R	G	R

(2)

【図 3】

第 1 の実施形態における画像処理部の動作フローチャート



【図 4】

類似度成分の加重加算を説明する図

1		1
	4	
1		1

$\times 1/8$

(1) 方法 1 に相当する
類似度成分の加重加算

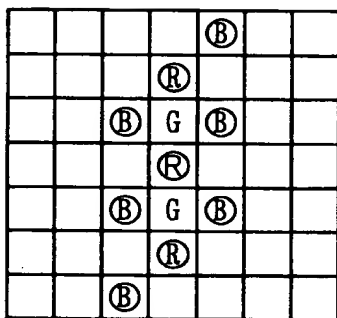
		1		
	2		2	
1		4		1
	2		2	
		1		

$\times 1/16$

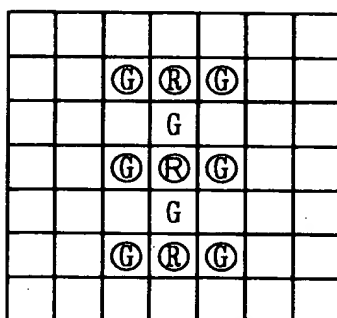
(2) 方法 2 に相当する
類似度成分の加重加算

【図 5】

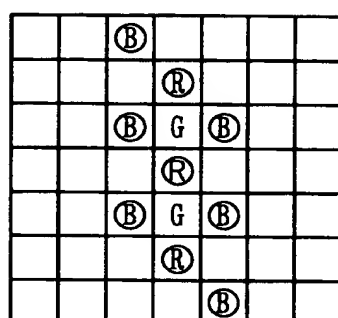
緑の補間値を算出する際に用いる色情報の位置を示す図



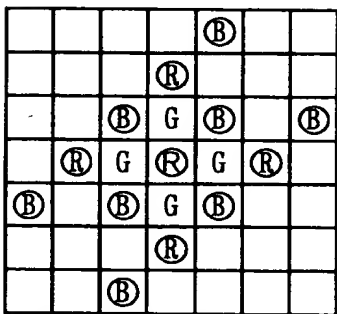
case1 : (HV,DN)=(1,1)



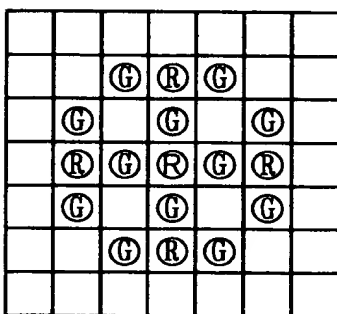
case2 : (HV,DN)=(1,0)



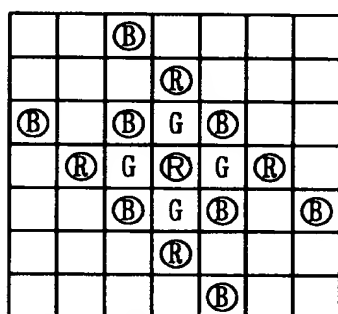
case3 : (HV,DN)=(1,-1)



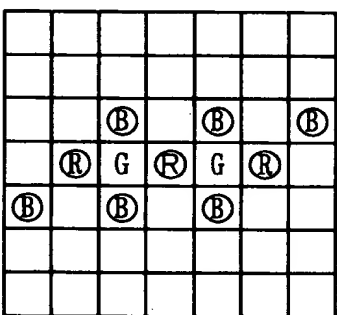
case4 : (HV,DN)=(0,1)



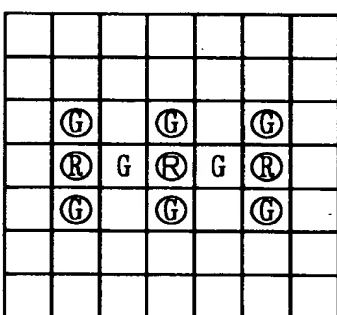
case5 : (HV,DN)=(0,0)



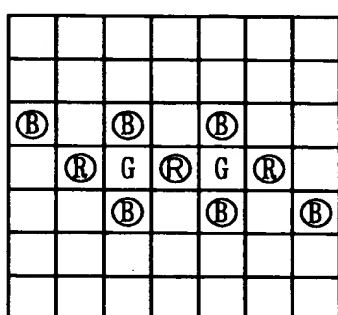
case6 : (HV,DN)=(0,-1)



case7 : (HV,DN)=(-1,1)



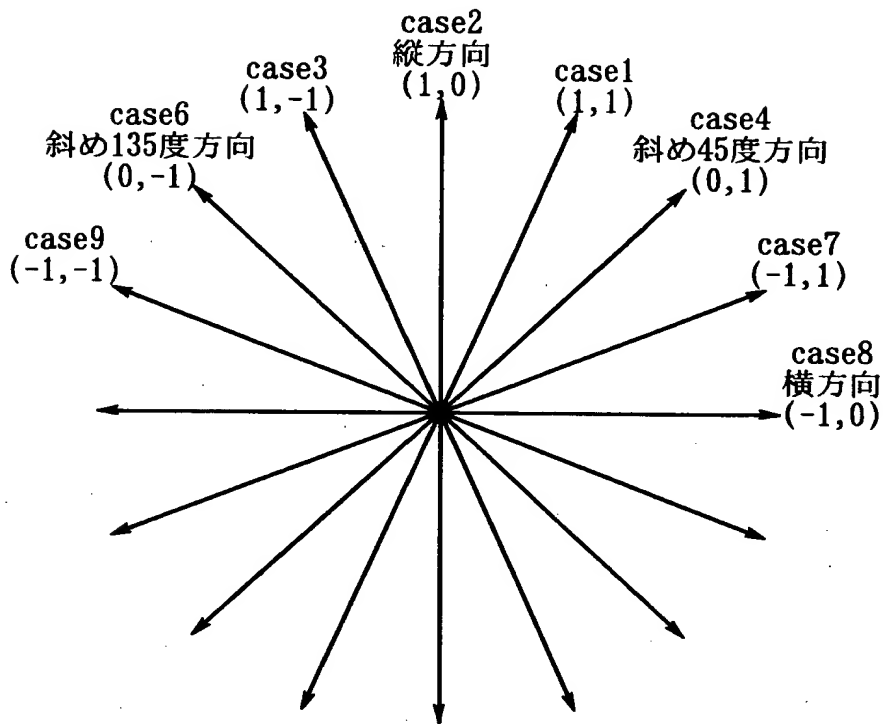
case8 : (HV,DN)=(-1,0)



case9 : (HV,DN)=(-1,-1)

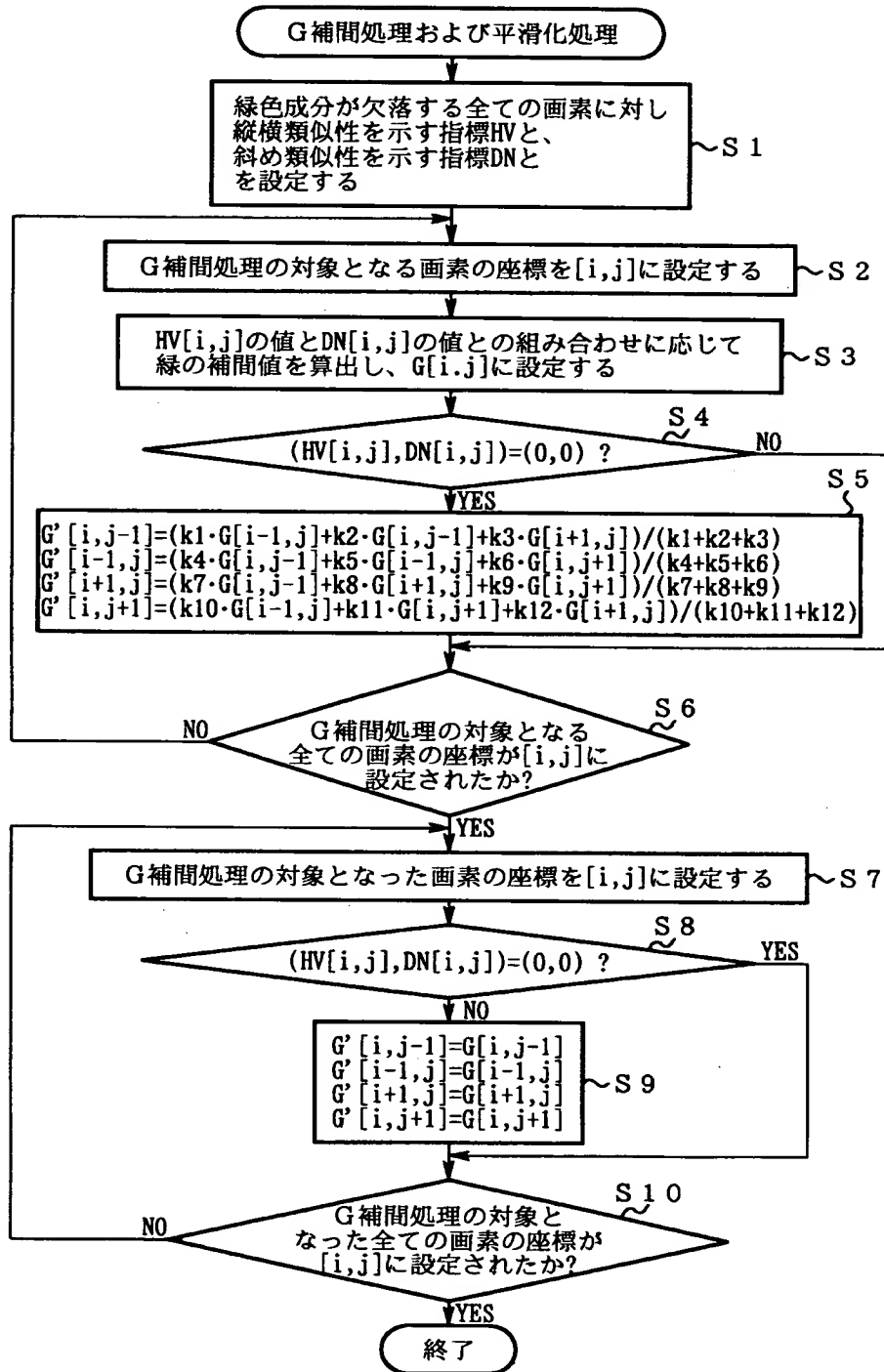
【図 6】

(HV[i,j],DN[i,j])の値に対応する類似性の強い方向を示す



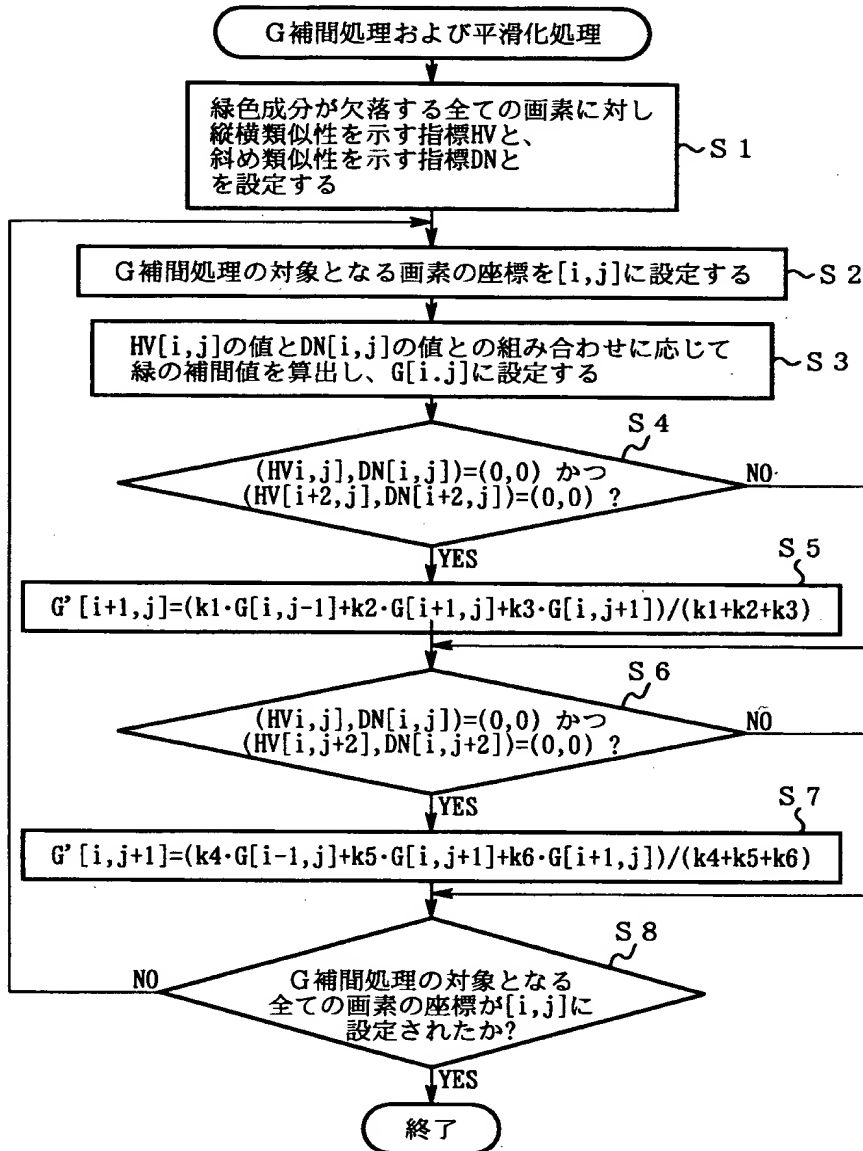
【図 7】

第 1 の実施形態に類似する画像処理部の動作フローチャート



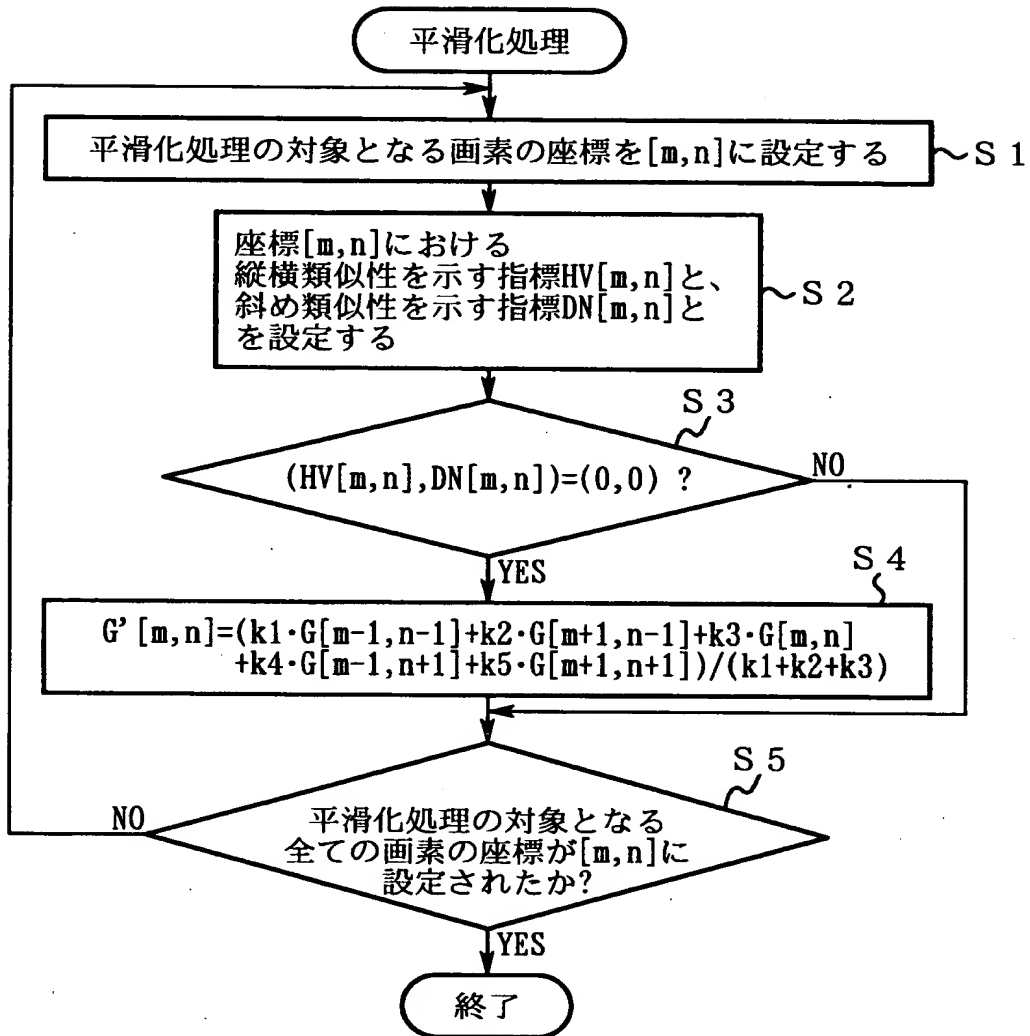
【図 8】

第 2 の実施形態における画像処理部の動作フローチャート



【図 9】

第 3 の実施形態における画像処理部の動作フローチャート



【図 1 0】

格子パターンを示す画像の色情報の値の例を示す図

座標[X,Y]	i-3	i-2	i-1	i	i+1	i+2	i+3
j-3	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150
j-2	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100
j-1	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150
j	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100
j+1	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150
j+2	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100	R=150	G=100
j+3	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150	G=200	B=150

(1)

格子パターンを示す画像に補間処理を行った後の
緑色成分の値の例を示す図

座標[X,Y]	i-3	i-2	i-1	i	i+1	i+2	i+3
j-3	150	200	150	200	150	200	150
j-2	100	150	100	150	100	150	100
j-1	150	200	150	200	150	200	150
j	100	150	100	150	100	150	100
j+1	150	200	150	200	150	200	150
j+2	100	150	100	150	100	150	100
j+3	150	200	150	200	150	200	150

(2)

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 画像データに対して平滑化を行う画像処理装置および該平滑化をコンピュータで実現させるための画像処理プログラムを記録した記録媒体に関し、画像本来の色構造を残しつつ平滑化が行うことを目的とする。

【解決手段】 平滑化手段は、画像データを構成する複数の画素のうち、着目する画素を示す着目画素と、該着目画素の周辺に位置する画素との相関に応じて、該着目画素の少なくとも1つの色成分に対し、選択的に平滑化を行う。

【選択図】 図3

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000004112]

1. 変更年月日 1990年 8月29日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都千代田区丸の内3丁目2番3号
氏 名 株式会社ニコン